

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真 1) (表 1) などと文中に記載し、右ページに(写真 1) (表 1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

※事務局記入欄
 No. C-16

【様式 2】

部門名： 地域とともにある学校実践部門	エントリー名： 山口県立熊毛北高等学校 沖田道世 平成30年度 第2回校長研修
活動名： 地域とともに課題解決 ～学校と地域が win-win～	
解決すべき課題： 地域とともにある学校づくりを進めるとともに、地域の活性化に貢献したい。 (1) コミュニティ・スクール制度の教職員の理解の深化 (2) ライフデザイン科課題研究による商品開発へのやる気スイッチ on (3) 地域のニーズとメディア部の活性化 (4) 学校課題解決に向けた学校運営協議会委員の参画	
目標・方針： 本校は、家庭科の専門学科を併設する高校としての強みを生かして学校の特色づくりを推進すると共に、地域の活性化・地方創生に向けた学校・地域の効果的な連携・協働体制の構築を図ることを目的として、昨年度から学校運営協議会を設置してコミュニティ・スクールとなった。中央研修で学んだ島根県立隠岐島前高校の取組を参考に、地域とともに課題解決ができる学校運営を目指した。まずは、校長自身がマインドを開くこと、教職員と学校運営協議会委員が同じゴールに向かうための熟議でベクトル合わせをすること、生徒と地元の方々との face to face の交流を仕組む中で生徒の成長を見える化することを実践する。	
活動内容： (1) 学校運営協議会委員と全教職員との熟議を開催 議題 「本校でどのような生徒を育てたいのか」 ⇒ 「自立した生徒」  コミスクについての学習会 熟議の様子 どのような生徒を育てるのか (2) ベじふる GO レンジャーによるベじふるジャム CM 動画を制作 ⇒ 販売促進と自己肯定感アップ 卒業生、普通科の生徒、地域住民、農産物加工所、・・・巻き込む  ベじふる GO レンジャー衣装製作 ヴォーカリスト Lino さんとテーマソングを大合唱 ベじふる GO レンジャーデビュー	

(3) くまげ地域農家マッププロジェクト

地元熊毛のレストランや加工業者
販売業者の要望

+
 メディア部としてのまとまった活動
創作活動の発表の機会






くまげ経済活性化会議実行委員会の方との準備

農家への取材の様子

(4) ①総合的な探究の時間の充実
 三丘ずっと子どもがいる街プロジェクトへの参画 ⇒ 文化祭への取組





熊毛地域の子供たちと一緒に本校のグラウンド跡地公園化計画

公園にモニュメント(クマッキー)制作 ⇒ 文化祭で発表

②拡大いじめ対策委員会へ出席
 11月 いじめ重大事態が発生 ⇒ 学校運営協議会委員の参画

活動の成果：

- 小グループに分かれ、意見を交わし、育てたい生徒像を共有することで協議会委員と教職員の距離が近くなりベクトル合わせになった。これを今年度(平成31年度)の学校教育目標にした。
- 7年前のライフデザイン科食物文化コースの課題研究で開発された商品が、多くの人々を巻き込みながら販売促進されることで、関わったすべての生徒の自己肯定感が高まった。現在、課題研究に取り組む生徒のモチベーションアップにも繋がった。
- 地元のニーズに応える形でメディア部一年生が取り組んだが、取材活動で地域の方々と直接話し、ふれあうことで、生徒と農家の方々双方向のコミュニケーションが取れた。部活の活性化と地域の活性化に役立った。一部の生徒からは、「もっと役に立ちたい」という前向きな発言が出た。
- ①普通科とライフデザイン科が併設された本校において、普通科の活性化が一つの課題であるが、普通科の総合的な探究の時間に地域とのコラボを入れることで、普通科の生徒が生き生きと活動している様子がみられた。普通科の活性化に繋がった。
 ②11月、いじめ重大事態が発生した時、運営協議会委員に拡大いじめ対策委員会に加わっていただき、解決に向けて一緒に考え対策を練った。委員からの客観的な厳しい意見により、見えていない大切なものに気付かされた。たいへん心強かった。よい方向に解決し、不登校も解消した。

アピールポイント(アイディアや工夫)：

- 学校運営協議会委員と全教職員との熟議を実現 ⇒ ベクトル合わせ
- ベじふる GO レンジャーの取組は、家庭科の専門学科がある学校ならではの力の合わせ方ができた。
- 校長のくまげ経済活性化会議実行委員会の委員として活動 ⇒ 地元のニーズをキャッチ
- 校長がマインドを開く姿勢 ⇒ 知恵や協力をゲット